

I. 平成22年度事業計画

1. はじめに

(財) 癌研究会は、癌専門の研究・医療機関として、わが国唯一の民間経営でありながら、数ある国公立の機関にまさる質の高さと規模を誇り、設立以来の理念である「癌の克服」に大きく貢献してきている。

さて、当会の平成21年度をまもなく終えようとしている。21年度は癌研究会が“安定した財政基盤の確立”を掲げてスタートした「中期事業計画」の一年目に当たる。

手術数の増加努力や病床稼働率の向上など、さまざまな収支改善策への取り組みが功を奏し、特に下期以降は大きな成果に結びつけることができた。

この結果、現時点での21年度の最終損益の見通しは、まだ赤字ながらも、前年度に比べ大幅に改善するとともに、損益額の目標値も何とかクリアできるところまでこぎ着けられた。

手ごたえとしては、再建に向けての第一歩を踏み出せたものと考えている。

2. 22年度事業方針

(1) 基本的な考え方

有明に移転して5年が経過したが、患者さん数は年を追って増加（21年度延べ外来患者数見通し39.3万人）してきているが、しかし一方で手術や入院待ちの患者さんも相当数（手術入院目的待ちの患者数だけで約700人）あり、現実の問題となってきた。

これは癌研に対する社会の信頼や価値がますます高まっていることを反映してもいるが、お待たせしている患者さんや社会からの期待やニーズに、我々として今後如何に応えていくかも、問われていることになる。

22年度は、中期事業計画の2年目の年であり、ホップ・ステップ・ジャンプに例えれば、次のジャンプに備えた「ステップの年」と位置づけたい。

このため、もう一度有明移転時の基本精神と志に立ち返って、まずは研究所と病院が一体となっている癌研ならではの独自の体制を活かして、「次世代につながる創造的な医療の開発」を推進し、さらに「世界に誇れるがんの専門機関」となることを目指していきたい。そしてまた、癌研が世の中に先駆けた“臓器別チーム医療”に代表される「患者さん本位の医療体制」を引き続き推進し、癌の早期発見から難治癌対策まで、癌に対するシームレスな医療を継続・発展させていくことを基本方針の柱としたい。

もとよりこれらを進めていく上で、職員の自主性や創造性が大切であり、職員を重視する経営の精神とともに、コンプライアンスを尊重した組織風土をしっかりと根付かせていくことが、何よりも大切と考えている。

(2) 研究部門

研究部門では、がんの基礎研究を一層推進し、インビボイメージング(注1)など先進的な解析技術を駆使して、がんの本態の解明を目指す。

またゲノムセンターと研究所が一体となり、先進的ながん診断システムの開発を進めるとともに

に、癌化学療法センターを中心に、分子標的の同定（注2）を進めるなどにより、革新的ながん治療薬の開発を推進する。

（注1） 生きたままの植物や小動物を観察するためのイメージングシステム。

（注2） がんの特性を制御する薬剤の標的分子を見つけること。

（3）病院部門

病院部門では、病院の将来構想として“2013年までに到達すべきゴール”として八つの項目、たとえば「①創造的な医療の開発」、②“臓器別チーム医療”のさらなる推進による「患者本位のチーム医療体制の実践と支援体制の確立」などを定め、その第一歩を踏み出していく。

「創造的な医療の開発」に向けては、ユニークな横断的組織として設立した“臨床研究センター”を中心とした創造的研究の推進や、共同研究を他の病院や研究所とか、官公庁・企業などと積極的に進め、成果あるものとしていく。

また「患者さん本位の医療体制」については、以下の具体策を講じて改善を図っていく。

- ① 手術室を1室増室して15室体制とし、その効率的稼働により初診から治療開始までの時間を短縮する。
- ② 21年度に「7対1看護体制」に対応するため、一時的に一病棟(46床)を休止していたが、再び体制を整え22年4月から700床体制で再開する。これに伴い各病棟の臓器別再編と、効率的運用による病棟稼働率の向上を目指す。
- ③ 月曜祭日（ハッピーマンデー）4日間/年とゴールデンウィークの5月5日について、手術や外来など一部機能を稼働させ、患者さんの待ち日数短縮等のニーズに応えていく。

（4）22年度収支予算の編成

中期事業計画上の目標損益額としては▲71百万円となっているが、手術件数の増加に伴う増収や各種改善策を織り込んで、一年前倒しで70百万円の黒字化を目指していく。

（5）新公益法人への移行

新しい「公益財団法人」への移行を目指し、各種検討と準備を進める。2010年末を目標に申請を行う。

3. 「22年度診療報酬改定」に伴う補正予算の編成について

国による診療報酬の見直しもようやく3月にまとめられ、10年ぶりのプラス改定となった。当癌研究会についても、外科部門などを中心にある程度の増収効果が見込まれる。

今回策定した収支予算案については、この診療報酬の改定分が時間的に織り込めなかったため、今後すみやかに補正予算の編成を行い、次回6月の理事会に諮ることとする。

補正予算策定の方針としては、「ホップ・ステップ・ジャンプ」のいわば“ジャンプ”に相当する23年度以降の利益計画の達成をより確実なものとするため、その基盤固めに向けての先行投資やメリハリのある費用投入など、政策的に優先順位をつけて臨みたい。

以上

研 究 所

先進的な生命科学の推進を通じて、がんの発生と進展の分子機構の解明を進める。また、癌研有明病院との緊密な連携を通じて、ヒトがんの特性と個性を解明し、次世代の革新的ながん予防・がん医療の開発に資する。

以下、各研究部の研究計画の概要を示す。

生 化 学 部

1. 発がんとかん転移を制御する TGF- β /BMP シグナルの分子機構の解析
2. 骨代謝を制御する TGF- β /BMP シグナルと転写因子群の分子機構の解析
3. インビボ光イメージングを用いたがん転移の分子機構の解析
4. 新規インビボ光イメージング機器の開発

細胞生物部

1. 遺伝子変換マウスを用いたヒト発がん機構の解明
 - a. RAS 遺伝子活性化による扁平上皮がんと膵臓がんの発生機構
 - b. SHH シグナル活性化による表皮基底細胞腫と小脳髄芽腫の発生機構
 - c. DNA 複製・修復異常による発がん機構
2. マウス遺伝学を用いた発癌研究
 - a. 消化管発癌を抑制する遺伝子群の単離・同定
 - b. 個体内での遺伝子変異誘導の制御メカニズム解析

病 理 部

1. 形態とゲノム情報の統合の上に立つ癌の悪性度診断
2. 放射線・抗癌剤の効果判定の病理学
3. 内視鏡採取標本、縮小手術標本の断端診断学
4. 胃癌、大腸癌、肺癌など全臓器の癌における癌の縮小手術の適応条件
5. 肺癌、乳癌、消化器癌、頭頸部癌などにおける新規転座遺伝子の検出
6. 子宮頸部、頭頸部の腫瘍における HPV の関与とそのリスク評価
7. 石綿曝露、喫煙、Werner 症候群、HNPCC など、環境因子から遺伝性因子までを視野に入れた高発がん要因の研究
8. 光機能性プローブによる in vivo 微小癌検出の試み
9. Computer-aided pathological diagnosis 実現の試み
10. シグナル伝達系と組織像をつなぐシステム病理学の試み

遺伝子診断研究部

1. 乳癌発生に関する新規遺伝子の同定と機能解析
2. BRCA1/2 変異乳癌における PARP-1 阻害剤の抗腫瘍活性メカニズムの解明
3. BRCA2 遺伝子の中心体における新規機能の解析

所長室付物理グループ

1. 高精度画像誘導放射線治療の質的保証に関する研究
2. 医学物理士教育に関する研究

発がん研究部

1. マウス挿入変異システム(トランスポゾン及びレトロウイルス)を用いた発がん分子機構の解明
2. 血液・骨軟部腫瘍におけるキメラ型転写因子の機能解析
3. 骨肉腫の発生におけるゲノム異常の解析
4. Hox 及び Meis による転写制御機構の解析
 - a. Meis1 の転写制御機構と標的遺伝子を介した発がんにおける役割
 - b. Hox/Meis の協調因子 Trib ファミリー遺伝子の機能解析
5. 染色体転座モデルマウスを用いた発がん研究

蛋白創製研究部

1. 機能性人工タンパク質の創製研究
 - a. がん細胞を特異的に認識する人工タンパク質の創製
 - b. 人工タンパク質をベースとしたがん微小環境関知型ナノ材料の創製
2. 機能性人工タンパク質の応用開発研究
 - a. バイオ界面の形成とがん細胞補足装置の開発
 - b. 無機材料を機能化する人工タンパク質の開発

実験病理部

1. 染色体の構築に関する研究
 - a. 分裂期キナーゼによる染色体凝縮の制御機構
 - b. 染色体パッセンジャー複合体による姉妹染色分体の形成機構
2. 染色体の動態制御に関する研究
 - a. セントロメア構造欠損による染色体不安定性への関与
 - b. 動原体の動的変形による紡錘体チェックポイント制御機構
 - c. ゲノム安定性を保証する染色体分離のタイミング制御機構

がんゲノム研究部

1. 個別化医療実現のための生物情報研究

- a. 日本人癌関連統合データベースの更新と個別化医療に向けた応用解析
 - b. 超次元 OMICS データに対する情報解析技術の開発と解析システムの改良
 - c. データマイニングとテキストマイニングを融合した情報解析技術の開発と臨床データに対する新技術を用いたがん関連遺伝子探索への応用
2. 遺伝子発現情報に基づく治療効果予測システムの改良と臨床データへの応用
 3. ゲノム情報に基づく副作用予測システムの高精度化

がん生物部

1. 細胞老化の分子メカニズムの解明
 - a. 細胞老化誘導機構の解析
 - b. 細胞老化維持機構の解析
2. 細胞老化の生体内での役割の解明
 - a. 細胞老化の発癌における役割
 - b. 細胞老化の固体老化における役割
 - c. 細胞老化の肥満における役割

癌化学療法センター

当センターは、がんの特異的な分子標的の機能を抑制する新しい抗がん剤の開発、有効で安全な治療法の開発、薬剤感受性と耐性、副作用等がん化学療法に関する基礎的、臨床的研究を行う。また、がんの遺伝子治療法の基礎的研究、抗がん剤の分子薬理作用研究ならびにがん化学療法関連ゲノム、プロテオーム研究を行う。他方、国際がん化学療法シンポジウムの開催、日本がん分子標的治療学会の運営、抗悪性腫瘍薬開発フォーラムの開催、国内外の化学療法に関する情報の交換を行う。

各部門における事業概要は次のとおりである。

基礎研究部

1. 血小板凝集促進因子Aggrus依存的ながん転移の阻害剤開発研究
2. 抗がん剤耐性に関わる幹細胞様がん細胞の同定・制御機能の解析研究
3. 生存増殖シグナルを標的とした分子的治療法の基礎研究
4. がん転移に関わる遺伝子の機能解析研究

分子薬理部

1. がん細胞インフォーマティクスに基づく抗がん剤の分子薬理研究
2. 新規抗がん剤の探索と薬効評価
3. PI3キナーゼを標的とする分子標的薬の開発
4. がん化学療法に関するゲノム分子薬理研究

分子生物治療研究部

1. テロメアを標的としたがん治療法の開発研究
2. ポリADP-リボシル化酵素の機能解析とがん治療への応用
3. 脂質代謝を標的としたがん治療法の基礎研究
4. 内分泌療法耐性のメカニズム解析と克服薬の検索

遺伝子治療研究室

1. がん化学療法の有効性と安全性を高めるための耐性遺伝子療法の研究と開発(臨床部、化学療法科との共同研究)
2. ヒト造血幹細胞の分化・増殖と機能に関与する遺伝子の研究

ゲノム研究部

1. 遺伝子発現解析による分子標的薬剤の反応性診断研究
2. がん微小環境選択的な分子標的治療法の研究

臨床部

1. リンパ腫、骨髄腫等造血器腫瘍の分子標的治療および抗体療法に関する研究
2. 乳がん、消化器がんなど固形がんに対する新しい治療戦略の研究
3. 自己造血幹細胞併用による超大量化学療法の研究
4. バイオイメージングによるがん細胞の観察
5. 骨転移の機序とその治療に関する研究
6. 細胞死誘導とその耐性機序に関する研究
7. 細胞療法実施のための準備研究(細胞療法研究室)

制癌剤情報室

1. 日米両国のがん化学療法に関する情報の収集と交換
2. 国際癌化学療法シンポジウムの実施
3. 日本がん分子標的治療学会の運営
4. 抗悪性腫瘍薬開発フォーラムの開催

ゲノムセンター

ゲノムセンターでは、ゲノム科学技術を駆使することにより、がんの体系的理解と個人に最適ながん医療の実現を目指す。具体的には、「高機能抗体創製技術開発プロジェクト」として、次世代の個別化医療に応用しうる抗体の創製、また、橋渡し促進技術開発の先導研究として、「抗がん剤治療を革新する有効性診断技術の開発」を行う。

(1) 新機能抗体創製プロジェクト

臨床研究グループ

1. 新機能抗体創製プロジェクトにおける臨床計画の立案
2. 対象患者の選定、臨床材料採取
3. 各種臨床情報、病理学的情報、薬理情報等の収集、解析

抗体機能検定グループ

1. 高機能抗体の効率的な産生のための迅速なノックアウトマウス作製システムの開発
2. ヒトがん組織、培養細胞、モデル動物を用いた機能抗体の体系的評価システムの確立
3. 創製した抗体の体系的機能評価

乳腺ゲノム解析グループ

1. 先進的遺伝子発現解析による治療抗体標的分子の探索
2. 遺伝子発現プロファイリングによる有効な抗癌剤選択システムの開発
3. ゲノム網羅的解析情報を基盤とする乳癌のオーダーメイド医療の開発
4. トランスフェクションアレイによる抗癌剤感受性規定遺伝子の機能的スクリーニング

プロテオミクス解析グループ

1. 質量分析装置を用いた、新規診断マーカーおよびシステムの開発
2. 顕微質量分析装置の開発のための基盤情報の収集、解析
3. 抗体標的分子としてのがん特異的活性化酵素、複合体探索システムの開発

標的分子探索グループ

1. 先進的発現プロファイリングによる抗体医薬標的分子の探索
2. ゲノムシーケンス解析による抗体医薬標的分子の探索
3. 階層的な分子情報の高次利用による抗体医薬標的分子の探索

情報解析グループ

1. がん患者および癌組織の遺伝学的情報の蓄積とデータベース構築
2. がん患者の各種臨床病理学的情報の蓄積とデータベース構築
3. 新規に開発したアルゴリズムを用いた高機能抗体の候補分子探索
4. がん患者の治療感受性や副作用を規定する遺伝子の同定と予測モデルの開発
がん患者および癌組織の遺伝学的情報のデータベース化

(2)薬剤反応性プロジェクト

臨床研究グループ

1. 「抗がん剤治療を革新する有効性診断技術の開発」プロジェクトにおける臨床計画の立案
2. 対象患者の選定、臨床材料採取
3. 各種臨床情報、病理学的情報、薬理情報等の収集、解析

多型解析グループ

1. ゲノム情報に基づく化学療法剤感受性および副作用の発現強度を規定する遺伝子および遺伝子多型の同定
2. ゲノム情報による放射線感受性および副作用の発現強度を規定する遺伝子および遺伝子多型の同定

発現解析グループ

1. 精度の高いトランスクリプショナル・バイオマーカーの同定技術の開発
2. トランスクリプショナル・バイオマーカー実用化のための汎用性の高い測定技術の開発

有明病院

病院全体としての本年度の重要課題は、引き続き、診療・学術レベルの向上、運営の効率化・合理化、人材の確保・育成、院内の環境整備、職員の勤務態様の改善とモラルの向上・コンプライアンス遵守精神の向上などであり、今後とも積極的に進めてゆく。

診療部門における根幹をなす取り組みは、引き続き臓器別チーム医療である。そして癌の早期発見から難治癌対策まで、癌に対するシームレス医療の継続発展に努める。特に精度の高い検診の実施、質の高い手術の提供、最先端の集学的治療の実施、新薬による新しい化学療法の進歩を目指し、一方で優れた緩和医療の実践と普及に努める。

有明移転から 5 年が経過し、昨年度の経営危機にひとまずの区切りが付き、また事務局体制の刷新を踏まえて、病院の将来構想として当面の2013年までに到達すべきゴールを策定した。その第 1 歩を踏み出して行く所存である。

事業計画として列挙すると以下の通りである。

I. 2013 年までに到達すべきゴールとその細目

1. 創造的な医療の開発

1. 臨床研究センターを中心とした創造的研究開発の推進
2. 病院、研究所、官公庁、企業との共同研究の推進
3. 研究費(文部科学省、厚生労働省、経済産業省他)の獲得

2. 患者中心のチーム医療の実践と支援体制の確立

1. 臓器別チーム医療体制のさらなる推進
2. 患者・家族への精神的、社会的支援の充実
3. 安全・安心な医療体制の確立

3. 安定した財政基盤の確立

1. 中期事業計画の着実な実行
2. 寄付金(募金)獲得のための新たな企画・立案

4. 医療環境の変動に対応した効率的な病院経営

1. 医療政策に順応した診療体制の柔軟な変革

5. 病院組織の改善

1. 組織の見直しによる活性化、責任と権限の明確化
2. 人材育成

6. 魅力ある職場づくり

1. 労働環境の改善
2. 満足度向上につながる適正な評価制度の確立
3. 研修制度の充実

7. がん専門病院としての国際化の推進

1. 海外からの患者受け入れ体制の整備
2. 海外の提携医療施設の拡大
3. 国際交流の促進
4. 国際共同研究の推進

8. 情報公開と visibility(認知度)の向上

1. 広報活動の強化
2. 適切な医療指標の公開
3. 社会活動の推進

以上の多岐に渡るアクションプランを部門毎に検討し、可能な部分は数値目標化して、その実現に努める。

2. 具体的な実施計画項目として以下を挙げる。

- (1) 臨床研究センターの充実による研究所とのプロジェクト研究の推進
がん眼鏡プロジェクト、ペプチドワクチンプロジェクト、抗がん剤感受性試験など
- (2) 先端医療取得体制強化
放射線治療、手術部門、遺伝子診断部、遺伝子診療センター、新薬開発臨床センターなど
- (3) 臓器別チーム医療の実践と更なる進歩
臓器別センター診療の一層の推進、それに伴う癌総合治療部門の連携強化、TB、CB、の活動強化、職種間チーム医療の推進
- (4) 患者中心の医療の推進
患者・家族への精神的、社会的支援の充実、安全・安心な医療体制の確立、患者支援センターの充実、アメニティーの充実
- (5) 緩和ケア教育の推進、普及
都道府県がん診療連携指定病院の研修業務として、特に緩和研修受講者の増加を考え、開催回数を増加させる。同時に院内教育の拡大に努める
- (6) 緩和ケアチームの拡充
- (7) がん対策基本法に基づく後方支援体制の強化
支援センター室の拡大と室員の増員
- (8) 院内癌登録体制の強化とフォローアップ体制の強化
2006年以前分の登録内容の再点検と改訂の実施
- (9) DPC導入に向けての準備態勢整備
電子カルテのソフト改訂と事務部門の習熟向上
- (10) 診療報酬改定を踏まえた積極的対応対策の対策
- (11) 初診から治療開始までの時間の短縮
特に1室増設した手術室の効率的稼働
- (12) 国際委員会の設置とメディカルツーリズムへの取り組み推進
- (13) レジデント、コメディカル、事務部門を含む人材育成
- (14) 院内での認定看護師育成可能な体制作り。
- (15) 教育研修病院としてのシステムおよびカリキュラムの充実
特に本年度科から変更された教育制度の成果向上
- (16) 学術講演会、院内発表会、GCの定期開催、死亡症例検討会、各種委員会主催講習会などの積極的実施
- (17) リスクマネジメント室の組織改革と、医療安全に対する全病院的取り組みの強化
- (18) 難治癌プロジェクトを支える体制整備
特に原発不明癌診療のシステム整備
- (19) 服薬指導の推進
院外処方箋発行率を高め、全病棟の服薬指導実施を目指す

- (20) **Balanced Score Card** システムによる目標設定と業績評価の推進
診療各科の収支の把握と透明化、その他の実績に応じた定員管理
- (21) 健診センターの充実
健診待ち期間の短縮を図るための診察室数の増加
- (22) **Happy Monday** の一部稼働開始
治療待機患者の治療要請要望に応える(手術部門、画像診断部門、外来治療センターなど)
- (23) 外来患者の待ち時間の短縮
正確な予約管理と、経過観察内容の再検討
- (24) 腫瘍救急を中心とした救急患者の受け入れ推進
都内からの救急車の受け入れ実績を、夜間・休日分で 300 台を目指す
- (25) 災害拠点病院としての役割分担と体制の整備
江東区医師会と共同して、広域災害時の後方支援機能拡充と連携の充実
- (26) ボランティア活動の充実
ボランティアコーディネーターの新採用とボランティア委員会の活動強化
- (27) がん情報コーナーの充実
経費の予算化
- (28) 癌研有明友の会との連携強化
- (29) ハラスメント委員会活動の強化
モンスターペイシエントに対する対応部門の整備
- (30) その他

【 疾患別癌診療部門 】

呼吸器センター

○内科・外科共同

1. 放射線科と共同しての肺癌の集学的治療
2. CT による肺野型微小肺癌の発見と確定診断法の確立
3. すりガラス様陰影を呈する病変の経過観察方針の確立
4. 大細胞神経内分泌肺癌の術前診断方法の確立
5. 大細胞神経内分泌肺癌の治療法の研究
6. プラチナ製剤を含む術後補助療法に関する安全性の研究
7. 縦隔リンパ節転移に対する EBUS による低侵襲診断の確立
8. 研究所と連携した肺癌の遺伝子研究
9. 悪性中皮腫切除可能例に関する、集学的治療
10. 切除可能胸壁浸潤肺癌に対する集学的治療
11. 病理病期 I 期(T1>2cm)非小細胞肺癌に対する術後化学療法の確立

○呼吸器内科

1. 肺癌治療における標準的化学療法の確立のための臨床研究の充実
2. 適切な化学療法を行うための抗癌剤の代謝能および薬物動態の検討
3. 肺癌化学療法の個別化治療に向けた基礎的検討

4. イレッサ耐性症例に対する治療法の確立を目指した臨床研究
5. 限局型小細胞肺癌に対する新たな標準的治療の確立に関する研究
6. 高齢者非小細胞肺癌に対する新たな標準的治療の確立に関する研究
7. 手術不能もしくは術後再発胸腺腫に対する治療法の確立に関する研究
8. 進展型小細胞肺癌に対する新たな標準的治療の確立に関する研究
9. 局所進行非小細胞肺癌に対する標準的治療の確立に関する研究
10. 活性型 EGFR 遺伝子変異を有する非小細胞癌に対する治療法の開発
11. ALK-肺癌に対する治療方法の開発

○呼吸器外科

1. 肺野型微小肺癌に対する根治的縮小手術法の確立と標準化
2. 局所進行肺癌に対する、集学的治療としての外科療法の検討
3. 術中胸腔洗浄液の播種と関連する遺伝子学的の研究
4. 異時多発肺癌に対する外科療法
5. 転移性肺腫瘍に対する原発巣の特性を加味した外科療法
6. 胸腔鏡下肺切除の適正な適応と、安全性の研究
7. 研究所と連携したイメージング技術の臨床応用(臨床研究センター)
8. 肺野末梢小型肺癌に対する肺葉切除と区域切除の臨床試験
9. 胸部薄切CT所見に基づく肺野型早期肺癌に対する縮小手術

消化器センター

○消化器内科

(消化管グループ)

1. 内視鏡的全層切除の開発 ペンタックス社と共同開発 進行中
2. NBI拡大観察所見と組織像の立体構築 論文作成中
3. 早期胃がん範囲診断困難例におけるNBI観察
4. 微小癌におけるNBI所見と組織像の対比
5. 早期胃がんのESDにおける未分化型癌適応拡大と増殖帯進展に関する研究
6. 早期胃がんのESDにおける組織混合型の取り扱い
7. ピロリ菌除菌による微小胃癌発見能の向上性の検討
8. 食道異形上皮における拡大内視鏡観察と組織像
9. 胃癌術後の通過障害に対する、漢方薬(茯苓飲)による内科的治療法の検討
10. 抗癌剤の副作用による上下肢の知覚異常(しびれ)に対する、内科的治療法の確立
11. 栄養サポートチーム(NST)による、頭頸部癌の治療成績向上の検討
12. 抗癌剤感受性試験

(肝・胆・膵)

1. 膵癌、胆道癌、肝癌の化学療法、IVR の多施設臨床試験

2. 膵癌の免疫療法併用化学療法の臨床試験
3. 切除不能肝細胞癌に対するエピルビシンまたはドキソルビシン/リポドールを用いた TACE の第 II 相臨床試験 (日本・韓国共同試験)
4. 切除不能肝細胞癌に対する DSM を用いた TACE の有効性の検討
5. 転移性肝臓に対する DSM を用いた TACE の有効性の検討
6. 大腸癌肝転移に対する低容量 CDDP+5FU 動注化学療法の有効性の検討

(上部消化管)

1. NBI拡大内視鏡を用いた未分化型癌粘膜内浸潤度との対比
2. NBI拡大内視鏡を用いた早期胃癌、SM癌の診断
3. NBI拡大内視鏡を用いた表在型バレット食道がんの診断
4. 胃癌術後患者における食道バレット粘膜進展の検討
5. バレット食道柵状血管観察時の通常電子内視鏡所見とNBI拡大内視鏡所見の差異の検討
6. 早期胃がんESD後異時多発癌における背景粘膜の検討
7. NBI拡大内視鏡を用いた胃底腺領域における退色病変の検討
8. 進行胃癌術後患者に対する抗癌剤感受性試験
9. 胃癌術後患者の QOL 改善のための漢方薬の有用性の検討

(肝・胆・膵)

1. 肝細胞癌に対する DSM-TACE の治療効果の検討
2. 原発・転移性肝臓に対する動注化学療法の有効性、安全性の検討、最適集団の探索
3. Child A、HCC に対する TACE から Sorafenib への早期移行妥当性の検討
4. Clinical M0 の浸潤性膵管癌における遠隔転移出現と治療開始前 CA19-9 との関連の検討年度
5. 進行・再発胆膵癌に対する S1・CDDP 療法の feasibility 試験
6. 新規 TACE のレジメン開発
7. 膵癌術後患者の QOL 改善のための漢方薬の有用性の検討

(院外他施設との共同研究)

1. SM-11355 の肝細胞癌に対する臨床試験(第III相)－多孔性ゼラチン粒併用によるエピルビシン塩酸塩を対照薬とした並行群間比較試験
2. GEM 耐性膵癌に対する S-1 療法と SOX 療法の無作為化比較試験。
3. 進行肝細胞癌(HCC)患者を対象に、linifanib (ABT-869)とソラフェニブの有効性及び忍容性を比較する非盲検無作為化第III相試験
4. 切除不能進行胆道癌及び再発胆道癌に対する OTS102 とゲムシタピン塩酸塩併用の第 II 相臨床試験
5. JCOG0805: 進行胆道癌を対象としたゲムシタピン+S-1 併用療法と S-1 単剤療法のランダム化第 II 相試験
6. 初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有効性に関する多施設共同ランダム化並行群間比較試験)
7. 進行肝細胞がんに対するソラフェニブの第 II 相臨床試験
8. JCOG PC909: 局所進行膵管癌に対する S-1 併用放射線療法における導入化学療法の意義に関するランダム化第 II 相試験
9. 胆道がん切除後 S1 補助療法の feasibility study

○消化器外科

・総論

1. 患者の多様性に応じた集学的治療システムの構築
2. 消化器癌手術の合併症対策の推進
3. 消化器癌再発の病態解析と対策
4. 消化器癌に於ける緩和医療の活用
5. 消化器外科腫瘍外科医の育成
6. 腹腔鏡下手術の適応拡大
7. 内視鏡外科技術認定医の育成

(上部消化管)

食道癌

1. 食道癌における鏡視下手術の導入
2. 術前化学療法の有用性に関する研究
3. マイクロアレイなどを用いた放射線化学療法効果予測の確立
4. 早期食道癌に対する EMR+CRT などの低侵襲治療の開発
5. PET-CT による化学療法の効果判定の研究

胃 癌

1. 腹腔鏡下手術と内視鏡治療の併用による新しい胃癌治療法 (Laparoscope and Endoscope Combination Surgery) の普及－研究会の設立
2. 腹腔鏡下胃手術の普及のためのトレーニングシステムの開発
3. 全国規模臨床試験への積極的関与
4. 高度進行胃癌、特に CY(+)例に対する周術期化学療法の開発
5. 早期胃癌の機能温存手術における機能解析
6. 転移の可視化に関する研究(研究所と共同研究)

(下部消化管)

大腸癌

1. 直腸癌に対する機能温存手術の推進
2. 大腸癌の肝転移の危険因子の解析
3. 直腸癌に対する術前放射線化学療法の効果解析
4. 大腸早期癌の増殖と進展に関するゲノム解析
5. 腹腔鏡による側方転移郭清技術の確立
6. 進行再発大腸癌に対する手術を含めた集学的治療の研究
7. 大腸術後 Surgical site infection の予防法の確立
8. 大腸癌診療における PET の意義に関する検討

(肝・胆・膵)

主要項目

1. 肝胆膵癌に対する手術適応拡大
2. 肝胆膵癌に対する手術安全性の向上
3. 肝胆膵癌に対する低侵襲手術の導入:先進医療の実施

個別項目

1. 膵切除の際の膵離断法と合併症に関する研究
2. 胆道膵癌の進展範囲判定における MDCT の意義に関する研究
3. 腹腔鏡補助下肝切除、および膵切除の導入
4. 血管合併切除を伴う肝切除術式の開発
5. 膵頭十二指腸切除後の感染症のリスク因子の探索
6. 肝内胆管癌再発後の至適治療法の探索
7. 大腸癌肝転移に対する術後補助化学療法+肝切除に関する研究
8. 大腸癌肝転移に対する術前化学療法に関する研究
9. 膵悪性腫瘍に対する外科切除後補助化学療法の有用性に関する研究
10. 胆道悪性腫瘍に対する術後補助化学療法に関する研究

レディースセンター

○乳腺科

・研究計画

1. 非照射乳房温存療法の長期予後の解明と同側乳房内局所再発症例の検討
2. DCISの診断、治療に関する当院データの解析と問題点の抽出
3. 乳房温存療法における切除標本の断端検索に関する簡便法、センチネルリンパ節生検におけるRIに代わる簡便法の開発に関する研究所生化学部と富士フィルムとの共同研究
4. センチネルリンパ節生検後の上肢浮腫に関する調査研究の開始
5. 乳管内病変からの乳頭分泌液をもちいた早期診断に関する、防衛医大との共同研究
6. 石灰化マンモトーム生検、経乳管内視鏡生検における病理結果と長期予後に関する研究
7. アロマターゼ阻害剤アナストロゾールの至適投与期間、長期投与による有害事象を探る比較試験の継続実施 (NSASBC05 試験)と全国への試験参加への呼びかけ
8. 術前化学療法症例における画像診断と組織との対比より、適切な切除の方法を探る
9. アロマターゼ阻害剤による骨密度低下に対するゾレドロネート投与の有効性評価
10. 内視鏡、ライト付鉤等の道具を用いた美容に配慮した手術法の確立に関する研究
11. 超音波機器を用いたスクリーニング動画像から異常影を自動検出するための共同研究
12. 遺伝性乳癌の診断とその後の対応に関する研究および院内整備

・診療システム改善計画

1. 乳腺センターとして定期的な企画構想委員会を開催し、緊密な院内連携とコミュニケーションの強化を図る
2. 軽症乳癌患者、良性病変確定診断後のフォロー患者に関する地域連携の在り方を模索する具体的な連携可能病院の洗い出しを行う
3. 診療の統一化、センター内での治療方針、診療対応について常にコンセンサスを確認し、マニュアルとして文章化する。マニュアルの確認、更新作業を行い、徹底する

4. 乳癌認定看護師に外来診療と入院診療との橋渡しとしての役割を与え、また病棟と外来看護師の交流を積極的に行い、病棟と外来との継続看護の充実を図る
5. 乳房超音波検査、細胞診断を乳腺センター内の検査として位置づけ、迅速な対応と精度の向上をめざす。超音波装置の老朽化に対する装置更新の必要性を訴える
6. 乳腺外来のブース拡充と全員参加による待たせない効率的な外来運営を図る
7. 地方で乳腺専門医を目指す若い医師のための短期研修コースを年3回に拡充、実施する
8. 乳癌専門医、専門看護師をめざす者に対する教育研修の場としてアピールし、研修希望者をレジデントや職員以外で受け入れるシステムを構築する

○婦人科

・診療上の課題

1. 婦人科がんの手術数を増加維持して日本一にする
 - ・1ヶ月の手術件数 80-85 件、がんの根治手術 40-45 件をめざす
2. レディースセンター婦人科外来のスムーズな運営
 - ・再発がんの早期診断と早期治療を目指す
 - ・治療適応を良く見極め、適切な治療中止基準の基で、早期に緩和ケア開始する

・研究上の課題

(子宮頸がん)

1. 子宮頸がんに対する化学放射線併用療法の Phase II 臨床試験
 - ・私達が決定した推奨投与量を (weekly CDDP30, Taxol50mg/m²) を用いて多施設共同前向き臨床試験 (JACCRO、GY-01) を開始したので、これを推進する
2. 私達の自主研究(子宮頸がん IB1 期で、長径2cm以上の症例に対する縮小広汎手術の feasibility 研究) は目標 20 例を越えて症例を集積している。20 例の 2 年無増悪生存を確認できれば、この手術適応を IB1 期全体に拡大する
3. 私達が立案した、子宮頸部扁平上皮癌 Ib-IIa 期でリンパ節転移陽性症例に対する術後補助化学療法塩酸イリノテカン(CPT-11)+ネダプラチン(NDP)第 2 相試験『JGOG (日本婦人科がん化学療法共同研究機構) 1067』を開始したので、これを推進する
4. 私が研究代表者を務める、子宮頸がん IB2 期、I 期を対象とした術前化学療法塩酸イリノテカン(CPT-11) +ネダプラチン(NDP)第 2 相試験 (JGOG1065) の成績を論文発表する。続いて、扁平上皮癌にはタキソール+カルボプラチン、非扁平上皮癌にはドセタキセル+カルボプラチンを用いた術前化学療法の有効性を多施設で進展させる

(子宮体がん)

1. 小さな子宮体がんを早期に診断し、その病態像から、より確実な早期診断方法を確立する
2. 進行体がんに対する治療戦略: 標準手術ができない(。)局所進行例、(Γ)腹腔内蔓延例、(J)遠隔転移例の 3 種の病態別の至適治療戦略の開発

(卵巣がん)

1. 進行卵巣がんに対する治療戦略: NAC→IDS の有用性の feasibility study; NAC として dose-densed TC を用いて feasibility を検討している。

2. 卵巣がんの三次元培養法による抗がん剤感受性試験の臨床応用

前立腺センター

・診療のテーマ

1. 個々の患者の病態に最適と考えられる、patient-oriented の医療の実施
2. 患者の生活の質ならびに治療選択権に配慮したやさしい医療の提供
3. コメディカルとの協調による患者サービスの徹底

・研究のテーマ

1. 神経温存前立腺全摘術後の ED 克服を目指したリハビリテーションプロトコルの確立
2. 未治療中間リスク限局性前立腺癌に対する NHT+ヨウ素 125 密封小線源永久挿入療法+AHT と NHT+ヨウ素 125 密封小線源永久挿入療法とのランダム化比較試験
(多施設共同研究)
3. ホルモン抵抗性前立腺癌に対する 化学療法導入時期の検討
4. 前立腺限局癌に対する各種治療法と縦断的 QOL 解析
5. 前立腺癌が産生する血中テストステロン抑制物質の検討
6. アンドロゲン非依存性前立腺癌に対する抱合型エストロゲン製剤(フレマリン)のパイロット試験
7. 前立腺癌小線源療法の有効性と有害事象に関する検討
8. ハイリスク前立腺癌に対する手術における specimen confined disease の予測因子
9. 限局性前立腺癌に対する部分治療の患者選択クライテリアの作成
10. 中間リスク前立腺癌に対する 70Gy/28 分割の短期強度変調放射線治療の安全性と有効性の検討

頭 頸 科

・基本方針

1. 患者中心で、かつ最高水準の頭頸部がん治療の開発と実践
2. 本邦における治療の最終病院として、他施設との連携の重視
(可能な限り治療、相談の受け入れとケア)
3. 頭頸部癌治療医の育成機関としての役割を果たしてゆく
(部内のみならず、外に向かっても更に開かれた部門として頭頸部治療医を育成)
4. 国内外との積極的な交流
5. チーム医療による頭頸部がん治療の新しい可能性を常に模索してゆく

・研究課題

1. 頭頸部癌治療の標準化
2. 頭頸部がんに対する機能温存治療の拡大
3. 咽頭癌の早期発見と内視鏡下切除の推進、適応の検討
4. 手術手技の習得のための教育的手法の検討
5. 頭頸部再建術の標準化のこころみ
6. 頭頸部癌術後の QOL の検討

7. 頭頸部癌転移要因の解析
8. 無症候性微小乳頭癌の非手術経過観察:prospective study の継続
9. 甲状腺乳頭癌に対する TSH 抑制療法の効果についての RCT:2008 年末時点でデータ集計
10. 甲状腺乳頭癌に対するリンパ節郭清、予防的側頸部郭清の prospective study のまとめ
11. 甲状腺乳頭癌の腺外浸潤の診断、臨床的定義、予後因子としての意義についての検討
12. 甲状腺乳頭癌の独自の癌死危険度分類に基づく治療方針の確定とデータの蓄積
13. 甲状腺乳頭癌高危険度症例に対する予防的放射性ヨード治療の効能評価
14. 甲状腺濾胞癌、遠隔転移の危険因子の解析とそれに基づく治療方針の確定
15. 有症候性微小乳頭癌の予後因子解析と治療方針の確定
16. 甲状腺未分化癌の prognostic index に基づく治療の結果と放射線化学療法の評価
17. 甲状腺低分化癌の臨床と病理組織学的定義の問題点の検討
18. 甲状腺手術における術中神経モニタリングの効用評価
19. 甲状腺癌骨転移における骨代謝マーカーの有用性の評価
20. 甲状腺癌骨転移に対するゾメタ治療の効果についての検討

整形外科

・診療のテーマ

1. 患者中心の安全な治療法の確立
2. 迅速な診断治療システムの確立
3. 海外を含む他施設との連携強化
4. 他病院小児科との連携強化

・研究のテーマ

1. 切除縁評価法の再評価
2. 再発腫瘍の至適切切除範囲
3. 遺伝子解析による肉腫の悪性度分類
4. 浸潤性発育を示す肉腫の遺伝子診断と治療法の確立
5. 転移を有する肉腫に対する新規抗癌剤の多施設共同研究
6. 軟部肉腫に対する術前放射線治療の意義
7. 骨肉腫に対する化学療法(多施設共同)
8. 上肢発生軟部肉腫広範切除後の再建法

泌尿器科

・診療のテーマ

1. 個々の患者の病態に最適と考えられる、patient-oriented の医療の実施
2. 患者の生活の質ならびに治療選択権に配慮した優しい医療の提供
3. コメディカルとの協調による患者サービスの徹底

・研究のテーマ

1. 腎細胞癌における染色体解析の臨床的意義の検討
2. 40歳以下の若年性腎癌の臨床病理学的検討
3. 膀胱全摘後の尿路変向法と縦断的 QOL 解析
4. 深部浸潤性膀胱癌に対する 広範全摘術と術後補助化学療法による集学的治療の検討
5. リンパ節転移陽性尿路上皮癌における gemcitabine, etoposide, cisplatin 併用化学療法後の salvage 手術の有用性の検討
6. 前化学療法抵抗性進行尿路上皮癌に対する taxol, gemcitabine, cisplatin 併用化学療法
7. 表在性膀胱癌の術後早期再発に対する術直後単回膀胱内注入療法:
THP と MMC による再発予防効果の比較試験
8. 再発難治性精巣腫瘍における救済化学療法後の残存腫瘍に対する salvage 手術の有用性の検討

血液腫瘍科

・研究のテーマ

基礎研究

1. 悪性リンパ腫の抗体療法の耐性機序に関する研究
2. プロテオソーム/ユビキチン経路における阻害剤の開発
3. シャペロン TCP 複合体の機能とその阻害剤の開発
4. BCR-ABL チロシキナーゼ阻害剤の耐性機序に関する研究
5. 造血器腫瘍細胞における Dlk の発現
6. 開発中の新規抗腫瘍薬 OPC-252 の患者由来腫瘍細胞を用いた ex vivo 試験系による抗腫瘍作用の検討
7. STAT3 阻害剤の抗腫瘍効果の研究

臨床研究

1. CD20 陽性 B 細胞性悪性リンパ腫に対するリツキシマブ毎週単剤投与またはリツキシマブ併用化学療法における単位時間当たりのリツキシマブ最大耐量(最高投与速度)に関する安全性および忍容性を検証し、単位時間当たりの最適投与量(投与速度)を決定する臨床試験
2. リツキシマブと化学療法又は放射免疫療法不応・再発緩徐進行性非ホジキンリンパ腫(Indolent NHL)患者を対象とした Inotuzumab Ozogamicin (CMC-544)の第Ⅱ相試験
3. リツキシマブを併用した第一選択化学療法で完全奏効が確認された poor risk びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫(DLBCL)患者を対象に RAD001 による補助療法をプラセボと比較するランダム化、二重盲検、プラセボ対照、多施設共同、第Ⅲ相試験
4. 開発中の新規抗腫瘍薬 OPC-252 の患者由来腫瘍細胞を用いた ex vivo 試験系による抗腫瘍作用の検討
5. 既治療慢性リンパ性白血病患者を対象とした ofatumumab (GSK1841157)の非対照、非盲検、第Ⅰ／Ⅱ相臨床試験
6. 自家造血幹細胞移植に適格な、再発／治療抵抗性の CD22 陽性びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫患者を対象とした Inotuzumab Ozogamicin+リツキシマブの非盲検、単一群、第Ⅱ相試験
7. 大塚製薬との共同研究で、骨髄腫、再発リンパ腫における作用を検討する

・診療のテーマ

1. 悪性リンパ腫の標準治療法の改良
2. 難治性リンパ腫の新規治療法の開発

3. まれな白血病/リンパ腫の治療法の開発
4. 日本における骨髄腫治療の標準化

【 癌総合治療部門 】

化学療法科

・研究のテーマ

1. 新抗癌剤の臨床研究
2. 乳癌の化学療法と遺伝子解析
3. 悪性腫瘍の骨転移臨床研究
4. 抗癌剤の耐性克服機序と細胞死関連蛋白の発現についての研究
5. 臨床腫瘍専門医合格者を増加させる
6. 循環血中腫瘍細胞と内皮細胞の測定と意義
7. がん幹細胞のイメージング研究

・診療のテーマ

1. 臓器別、層別化診療の推進を行う。特に乳癌、消化器癌では大腸癌、血液では、悪性リンパ腫、骨髄腫を中心に、治療する。できるだけ外来治療を中心とする。外来治療を他施設から見学出来るようにする
2. 各科との協力的診療の推進:特に乳癌、消化器癌では大腸癌、胃癌、食道癌、血液では慢性白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫、頭頸部腫瘍、原発不明癌を中心に診療する
3. 分子標的治療の推進:特にハーセプチン、リツキサン、グリベック、ベルケイドの治療を短期入院および外来治療を推進する
4. まれな疾患でも末梢血幹細胞移植や大量化学療法、集学的治療を積極的に推進する。ただし選択、集中する。
5. 院内の化学療法全体が安全かつ効率的に行えるように積極的に診療する
6. 原発不明癌についてはほぼプロジェクトが終了し、標準化されたので、他の施設への指導に移行する

放射線治療科

1. 診療のテーマ: 診療上の課題 = 研究課題

1. 食道癌、肺癌の集学的治療に関する研究 : 臨床研究中
2. 直腸癌の術前化学放射線療法:臨床研究中
3. 乳房温存療法における放射線治療の検討 : 深吸気照射・FIF 法 : 研究終了 → 臨床応用中
4. 頭頸部腫瘍に対する IMRT:研究終了 → 臨床応用中
5. 椎体骨転移における再照射定位照射 : 臨床研究中
6. 子宮頸癌の化学放射線療法日本人女性における CTV 設定の検討 : 研究中
7. 悪性リンパ腫の放射線治療の検討 : INRT と IMRT の導入:研究終了 → 臨床応用中

・研究のテーマ : 研究上の課題

1. 小線源治療に関する研究

- a) Image-guided brachytherapy の研究 : 研究中
- 2. 外部照射に関する研究
 - a) 前立腺がんの金属マーカーを用いた IGRT : 研究中
 - b) 食道癌における呼吸同期照射法の検討 : 研究中
 - c) 非小細胞性肺癌 T2N0 の呼吸同期定位照射: 研究中
 - d) 非小細胞性肺癌の呼吸同期 IMRT・IGRT : 研究中
 - e) 胃・上腹部腫瘍に対する呼吸同期照射法の検討: 研究中
 - f) IMRT の QA/QC : 研究中
 - g) 放射線治療効果と低酸素細胞の関連性について : 臨床研究中
 - h) 新しい治療計画機器ソフトの検証: 研究中

免疫・遺伝子治療科

・研究のテーマ

1. 乳癌の MDR1 遺伝子治療の臨床研究
2. 遺伝子導入血液細胞における遺伝子組込み部位および遺伝子導入クローンの消長に関する研究

・診療のテーマ

有明病院における遺伝子治療、細胞免疫治療の臨床システムの整備

1. クリーンルーム、細胞療法室の整備維持
2. 遺伝子治療用の臨床パスの作成、移植・化学療法専門ナースの教育、育成
3. 診療ガイドラインと連携した対象症例の pick-up 体制整備
4. ワクチン療法の患者リクルート

【 一般診療部門 】

総合内科

1. 他科との連携のもと、担癌患者における以下にあげる疾患の診断・治療循環器疾患、内分泌疾患、糖尿病、水電解質、骨代謝異常
2. ベストケアプロジェクトの継続実施
3. ベストケアプロジェクト対象症例の病因の解析
4. 術前術後患者の循環器機能のチェックと管理指導
5. 化学療法前後患者の循環器機能チェックと管理指導
6. 術前術後患者の内分泌代謝機能のチェックと管理指導
7. 術前術後糖尿病患者の管理指導
8. 担がん患者に対する漢方サポート治療の推進
9. アントラサイクリン系薬剤による心筋障害とBNPの動きに関する分析
10. 薬剤性心筋障害に対するACEおよびARBを用いた治療の有効性の検討

腫瘍精神科

1. 外来通院中・入院加療中の患者さんとそのご家族の不安障害などの精神疾患に対処する
2. 薬物療法を主とした医学的対処、腫瘍精神科専任看護師による支持的面接を行う
3. がんの精査中、治療中、リハビリ中、再発、進行期などあらゆる時期の紹介を受付ける

一般外科

1. 癌研有明病院に通院中あるいは入院中の患者で、一般外科の範疇に入る疾患についてのコンサルテーションや、暫定的な治療を行う
2. 癌研有明病院周辺で発生した緊急的一般外科、切創、打撲、擦過傷などの診療にあたる
3. 癌研の職員の一般外科的な疾患について診療する

形成外科

・診療のテーマ

1. 癌患者の QOL 向上を目指した再建術の確立
2. 個々の患者の状況に応じたオーダーメイド医療の確立
3. 各科に対応した迅速で安全なチーム医療の確立
4. 癌研独自の高度な再建手技の確立
5. 海外を含む他施設との連携強化

・研究のテーマ

1. 皮弁再建の術後機能評価(他施設共同)
2. 皮弁採取部の術後機能評価(他施設共同)
3. 四肢軟部悪性腫瘍再建の標準化
4. 機能的四肢再建治療の確立
5. 一期的乳房再建法の標準化
6. 自家組織乳房再建法の確立
7. 乳房再建後の術後評価法の確立
8. 脂肪幹細胞移植による乳房変形の治療
9. 顔面神経麻痺における再建法の確立
10. リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合治療
11. MRI を用いた機能的リンパ管の同定

眼科

1. 眼部悪性腫瘍に対する根治が得られ、かつ整容的な治療法の検討
2. 外眼部腫瘍に対する手術・再建
3. 眼内腫瘍・転移巣に対する手術・放射線療法

4. 眼内・眼窩悪性腫瘍および頭頸部からの浸潤例に対する眼窩内容除去術後における眼窩の再建および義眼床の作製による術後の義眼装着
5. 網膜の病態に関するエリスロポイエチンなどの体内因子の研究
6. 涙器疾患に対する外科的治療
7. 頭蓋内、頭蓋底および眼窩腫瘍・浸潤例による視覚障害の早期発見・治療、Humphrey 視野計、Goldmann 視野計、Hess co-ordimeter の活用など
8. 眼内・眼窩悪性腫瘍および頭頸部からの浸潤例に対する術後の鼻涙管の再建
9. 担癌患者に対する白内障手術など、Quality of Vision への貢献

歯 科

1. 化学療法時における歯科検診システムの確立
2. 頭頸部領域における放射線照射後の障害に対する予防法の検討
3. 周術期患者の口腔ケアの確立
4. ビスホスホネート製剤による顎骨壊死の予防と抜歯基準の検討

緩和ケア科

1. EBM に則った本邦の症状緩和ガイドラインの作成
2. 新規オピオイド鎮痛薬の治験
3. 予防的緩和ケアの概念の構築
4. 再発・転移がんにおける症状発現時期の prospective なモニタリングと緩和ケア科の介入時期と方法による症状緩和率の検証
5. 当院における教育カリキュラムと診療ガイドラインの作成

・診療のテーマ

1. 癌研では初の緩和ケア科による緩和ケア外来、緩和ケア病棟、緩和ケアチームの診療システムの構築と周知
2. 電子カルテによる病棟や外来との迅速なアクセスに基づいた各診療科と緩和ケア科の早い時期からの連携と円滑な緩和ケア科への移行
3. 他職種との円滑なチーム医療の遂行
4. 緩和ケアに関するレジデントや学生への教育
5. 正しい緩和ケアのあり方に関する国民への啓蒙

麻酔科(ペインクリニック)

1. 高質な麻酔科診療
 - 術前・術中・術後の一貫した診療、安全確保
2. 麻酔科・中央手術部の効率的運営
 - 臨床教育、人材確保、緊急症例への対応
3. ペインクリニック診療
 - 術後痛・癌性疼痛管理、緩和ケアチームとしての活動
4. 麻酔科外来診療の充実:患者数増加

【 中央診療部門 】

画像診断部

・研究課題

1. 卵巣悪性腫瘍の MRI による組織分類の検討
2. MRI による子宮頸癌の腫瘍径と進展度診断の確立
3. 非触知乳癌の同定と治療法に関する検討(乳腺科との共同研究)
4. 乳房内の MRI 検出病変に対する MRI ガイド下針生検法の開発
5. 泌尿器癌の CT、MRI による組織診断および進展度診断の検討
6. 頭頸部癌における CT・MR 診断能向上の検討
7. 癌診療における IVR の拡充
8. 積極的緩和医療における IVR の意義に関する検討

核医学部

・診療のテーマ

1. ポジトロン検査(PET および PET/CT)の推進
2. 骨転移に対するストロンチウム治療の推進(放射線治療科などと共同)
3. 再発・難治性低悪性度 B 細胞リンパ腫に対する放射免疫療法法の推進 (血液腫瘍科などと共同)

・臨床研究のテーマ

1. 骨転移診断法:骨シンチグラフィと FDG-PET の比較検討
2. 遺伝性腫瘍のサーベイランスにおける FDG-PET の有用性(遺伝子診療センターと共同)
3. 各疾患における FDG-PET の有用性の検討

超音波検査部

1. 高周波探触子を用いた鎖骨下静脈カテーテル関連血栓の検討
2. 超音波造影剤ソナゾイドを用いた肝腫瘍の診断能向上に関する検討
3. 頸部胸部境界領域の超音波診断に関する検討
4. 乳腺超音波検査の精度向上と効率化に関する検討
5. 乳腺、甲状腺など表在臓器の超音波ガイド下穿刺吸引細胞診の精度の向上に関する検討

内視鏡診療部

・診療のテーマ

1. 安全で苦痛のない内視鏡検査・治療の確立
2. 診断の向上と迅速な対応

3. 偶発症の予防と対策の推進

・研究のテーマ

1. 早期食道癌の診断・治療法の確立
2. 早期胃癌の EUS 診断の精度向上に関する研究
3. NBI, 拡大内視鏡診断の向上
4. 微小癌の診断法の確立
5. 未分化早期胃癌における増殖帯進展の病理学的検討
6. SM 癌に対する全層切除法の開発
7. SM 癌におけるリンパ節転移例のゲノム解析
8. カルチノイド腫瘍の診断と治療法の確立
9. 大腸癌の発育進展に関するゲノム解析
10. 大腸腫瘍の NBI、拡大観察診断の確立
11. 大腸腫瘍の内視鏡的治療法の検討
12. 大腸早期癌の内視鏡的治療後の長期経過観察の検討
13. 放射線腸炎に対する APC 療法の長期経過観察の検討
14. colitic cancer, dysplasia の早期診断の確立
15. HNPCC 例のサーベイランスの検討
16. FAP に対する内視鏡的治療の有用性の検討

外来治療センター(ATC)

・診療のテーマ

1. 新規薬剤の早期導入
2. 標準治療の安全性確立
3. 専門看護師、専門薬剤師の研修と外部への見学によるマネジメント確立
4. チーム医療の確立、効率化
5. ATC における服薬指導の向上

遺伝子診療センター

1. がんの遺伝子診療および遺伝カウンセリングシステムの確立
2. 変異保有者に対する癌の予防および診療各科と連携した生涯にわたるサーベイランスに関する研究
3. 保険適用となった遺伝子検査および研究としての遺伝子診断の実施
4. 既知の範疇にはない癌多発家系における原因遺伝子の同定
5. 一般集団も含めた遺伝子に関する情報提供の窓口としての機能の充実
6. がんの遺伝に関する適切な認識の普及、教育
7. 遺伝カウンセラー、遺伝子検査担当者等の遺伝子診療関係者の人材育成

集中治療部

1. 集中治療部は、重症患者さんの集中治療を集中治療室(ICU/HCU)で行う為に必要な設備や人員を支援する
2. 集中治療室(ICU/HCU)は、中央診療部門として重症患者さんに適した入院治療を24時間体制で行う
3. 集中治療部設備のための指針(2002)を参考に、高度な集中治療やハイケアに必要な設備や人員を増強し充実させる。同時に、当院独自の「がん集中治療」を支援する。
4. 集中治療室の整備
 - ・多臓器障害への集中治療に必要な設備や物品整備
 - ・集中治療部スタッフの数的・質的向上
 - ・集中治療部スタッフと各科担当医、MEセンター、院外専門医療機関等との連携強化
 - ・集中治療病床の有効利用推進(第二次救急医療機関専用ベットを含めHCU16床・ICU8床、計24床を母数とする目標病床稼働率70%以上の維持)
5. 集中治療部の活動
 - ・院内・院外の癌救急支援
 - ・一般救急の診療体制支援
 - ・スタットコール体制支援
 - ・緊急救命(全身管理)チーム支援

救急部

1. 救急部は、救急機能や災害対応の専門部門として、救急外来診療、院内救急対応、災害対応の中心として活動する
2. 当院が平成21年1月1日付で、日本救急医学会から救急科専門医指定施設に認定されたことを受けて、救急医療体制と災害対応体制について、地域医療に貢献すべく院内各部署や、院外緒機関の連携維持を強化する。
3. 救急部運営委員会・「救急ワーキンググループ」(QW)による救急部運営体制の維持
4. 救急外来診療
 - ・癌救急(Oncology Emergency)の実行・研修・研究活動の充実
 - ・「がん診療連携拠点病院」の救急部門としての救急業務の実施
 - ・救急科専門医指定施設・消防庁救急相談医派遣医療機関・救命士再教育医療機関としての救急医療・研修・研究体制の維持
 - ・地域救急医療システムでの協力連携体制の維持拡充
とりわけ、「開放病床」における急性期診療体制の確立
 - ・東京都による「島しょ救急患者搬送(ヘリ搬送)業務」協力体制整備
 - ・一般市民を対象とした応急処置や救急蘇生法教育
 - ・医師・医療関係者を対象としたJATEC,ICLS等へのインストラクター活動の維持充実
 - ・平成21年度に2回開催されたICLSコースのサイト化、維持充実。
5. 院内救急対応
 - ・院内救急体制の維持整備
 - ・スタットコール体制維持整備
 - ・緊急救命(全身管理)チーム体制の機能整備
 - ・医療従事者を対象とした救急対応法研修

・全身管理知識の普及活動の維持

6. 災害対応

・自衛消防との院内災害対応連携。

・「地域災害拠点病院」としての機能充実と人員整備

・「医療救護班」の維持、充実

・江東区、東京都、首都圏災害体制参画:とりわけ江東区医師会防災部会における地域防災活動への参画活動

・院内災害対応訓練、広域災害想定訓練

・災害対応ワークショップ、セミナー開催

【 臨床検査部門 】

病 理 部

1. 形態と遺伝子情報の総合の上に立つ病理診断学の研究と実践
2. 縮小手術の適応条件に関する研究と診断への応用—特に乳癌、消化管癌、肺癌について
3. 迅速診断への分子病理診断の応用—特に OSNA 法の乳癌、大腸癌、肺癌への適用
4. 融合遺伝子を有する癌の病理診断学的研究—特に ALK 融合遺伝子肺癌について
5. 癌の悪性度と治療感受性指標の研究—特に tyrosine kinase と PI3K, および神経内分泌性に注目して
6. 抗癌剤の効果判定に関する病理学的研究
7. 癌好発状態の研究—特に前癌状態、癌好発症候群(HNPCC、Werner 症候群等)について
8. HPV 感染が関与するがんの研究—特に婦人科がん、肛門管がん、頭頸部がんについて
9. 臨床各科の conference への病理学的寄与
10. Ganken Tissue Bank の運営と検体の諸研究への提供
11. 医療ミスを根絶させるための、作業・診断マニュアルの完成と実践

臨床検査第 I 部

1. 検体検査業務
 - 1) 報告時間短縮のためのあらゆる効率化、中間検体処理作業改善
 - 2) 適正項目の院内検査化による報告時間短縮および経費節減
 - 3) 効率化を追求しつつも、時間外も含めて高精度を保持する体制の維持および確立
 - 4) 新規検査項目の積極的な導入による医療および経済面への貢献
2. 採血業務
 - 1) 優れた採血担当技師の育成
 - 2) 採血管準備システムによる患者取違え完全防止策の確立
 - 3) 患者に心理負担を与えない接遇法の習得
3. 生理検査業務
 - 1) 新規検査項目の積極的な導入による医療および経済面への貢献
4. チーム医療における臨床検査部の役割
 - 1) パニック値報告システムのさらなる改善とその運用による医療への貢献
 - 2) ベストケアプロジェクト症例の病態解析への関与

- 3) NST への積極的参加と NST で実施した検査値の解析
- 4) ICT への積極的参加と細菌検査結果の解析
5. より高い医療水準を達成し、かつ効率的な検査オーダーおよびその評価体制構築への寄与
6. 検査に関する問い合わせあるいは要望に対する適切な接遇の追求
7. 各部門間のローテーションによる多能検査技師の育成

臨床検査第Ⅱ部

1. 安全な輸血を安定供給するための検討
2. 輸血による副作用の原因・追跡調査・予防法の検討、改善
3. 輸血患者遡及調査の実施、改善
4. 廃棄血液「ゼロ」に向けての取り組み
5. 血液照射装置の活用、実施
6. 輸血検査自動化についての検討
7. 夜間緊急体制(当直制)実施に向けての検討
8. 病床数増床にあたっての増員

臨床検査第Ⅲ部

1. 遺伝性癌の生殖細胞変異解析
APC, BRCA1, BRCA2, RET, MLH1, MSH2, p53 など
2. 大腸癌のリンパ節転移診断
3. 膵液などに含まれる細胞の DNA を用いて膵臓癌の補助診断
4. 固形癌(大腸癌、乳癌など)を中心とした抗癌剤感受性予測診断の確立
5. Microsatellite Instability(MSI)の解析
6. (遺伝性非腺腫性大腸癌(HNPCC)や多重癌のリスク診断)
7. 子宮頸部前癌病変の HPV-DNA 診断
8. 癌研ゲノムプロジェクトにおける臨床材料、個人情報などの収集・保管の拠点
9. 胸腔洗浄液の胸腔内微小転移検出の臨床研究

細胞診断部

1. 安全かつ低侵襲で精度の高い細胞診検査を、病院施設としては全国で最多数実施する
2. 日本臨床細胞学会「細胞診認定施設」の認定を所定の施設基準を満たすことにより継続する
3. がん専門病院として蓄積された豊富な資料と経験に基づき高精度な細胞診断を行う
4. 社会貢献として内外から評価が高い、専門の優秀な技術者を養成する「細胞検査士養成所」の運営を継続する。
5. 精度を保証するため、陰性例の 10%ダブルチェック、穿刺細胞診陰性例のダブルチェック、陽性例のトリプルチェック体制を維持、励行する
6. 細胞診領域の先端技術である液状化検体細胞診(LBC)をルーチンで使用する

7. フローサイトメトリーを活用した細胞診スクリーニング補助システムの開発評価研究をすすめる
8. 細胞診用染色液を改良し、純水器を設置して安定した染色性能を維持する

健診センター

1. 増大する健診希望者に対応した健診枠の拡大
2. 早期癌の診断に有用なヘリカル CT による肺癌の検診精度の向上
3. 表在癌の検出による早期食道癌の検診精度向上
4. 微小・表在癌の検出による早期胃癌の検診精度向上
5. 大腸癌の検診精度の向上
6. 乳癌の検診精度向上
7. ヒトパピローマウィルス(HPV)検査の活用による子宮頸癌の検診精度向上
8. PET 検査導入による腫瘍スクリーニング検診の推進
9. 腫瘍マーカーp53 の臨床的意義の検討(研究)推進
10. 子宮頸癌予防ワクチン普及に協力し、子宮頸癌予防に貢献する

新薬開発臨床センター

1. 新規薬剤の治験の推進、とくに第一相
2. CRC 業務の推進と増員、外部 CRC の受け入れ
3. 開発中薬剤の情報収集とコンサルティング
4. SDV を始めとする調査業務のスピード化
5. 海外と共同治験の実施
6. 治験担当薬剤師、検査技師の確保

臨床研究センター

医療に寄与する「臨床研究病院」として更なる発展を期する

1. プロジェクトと研究の推進
2. 創造的・横断的テーマの餞別

薬剤部

1. 調剤業務
 - 1) 正確な調剤
 - 2) 正確な抗癌剤および一般注射薬の混合調製
2. 管理業務
 - 1) 麻薬・向精神薬、毒薬等特定薬品の管理
 - 2) 病院経営を意識した医薬品の適正管理
 - 3) 癌化学療法レジメンの管理
 - 4) 医薬品情報の管理
3. 病棟業務
 - 1) 入院患者に対する薬学的ケアの拡充

2) 外来化学療法室における薬学的ケアの実践

4. 教育・研究業務

- 1) がん専門薬剤師・がん薬物療法認定薬剤師の育成
- 2) がん薬物治療の専門性を高める教育と研修
- 3) がん専門薬剤師研修、実務実習研修生の受け入れ
- 4) がん化学療法患者の副作用軽減に関する研究
- 5) 抗がん剤の職業曝露に関する研究

看護部

・基本方針

1. 患者さんを全人的にとらえ、個別的・継続的な看護を実践します
2. 患者さんの人権を尊重し、安全且つ質の高い看護を実践します
3. 多職種チームの一員として責任を果たします
4. 品格があり、自律した行動がとれる人間性豊かな看護職員を目指します

・活動目標

看護師一人ひとりが

1. 看護実践能力の向上につとめる
2. 各部署の実績を明確にして、看護部組織の強化をはかる
3. やりがいのある職場環境をつくり、看護師の定着をはかる

栄養科

1. 患者サービスの向上について
 - ・患者サービスの更なる向上を目指す
 - 1) 献立の内容・質の更なる改善
 - 2) がん専門病院として相応しい食種の拡充
2. 入院・外来栄養指導の更なる拡充
 - 1) 下部消化管の栄養指導の実施
 - 2) 糖尿病外来の栄養指導の実施
3. 入院患者の栄養サポートの拡充(栄養管理計画書の充実)
4. 衛生管理の更なる徹底
5. 栄養業務の更なる改善・向上の検討
 - 1) 栄養士・調理師の技術・意識の改革
 - 2) 学会・研修会への積極的な参加
6. コストの削減の徹底

【 医療支援部門 】

医療支援センター

がん診療連携拠点病院に求められている社会的責任(CSR)を果たすために、専門チームによる連携支援体制を構築し、患者さん・ご家族のみならず院内・院外全ての関係者へ具体的支援を実施する

QI室(クォリティーインプーメント)

1. 臓器別がん診療ガイドラインの改訂
2. 臓器別がん看護ガイドラインの策定
3. ご意見箱に対する対応・改善；反復する質問に対する回答を作成し、すぐに読んでいただけるようにする
4. 患者満足度調査・研究
5. 職員満足度調査・研究
6. 接遇改善に向けた計画立案
7. BSCとの連携による調査分析
8. クォリティーインディケータの作成
9. 慰霊祭の実施
10. 慰霊祭の今後のあり方の検討
11. 電話による苦情相談の対応システム構築
12. 患者配布用のパンフレットと院内掲示の見直しと整合性をとる